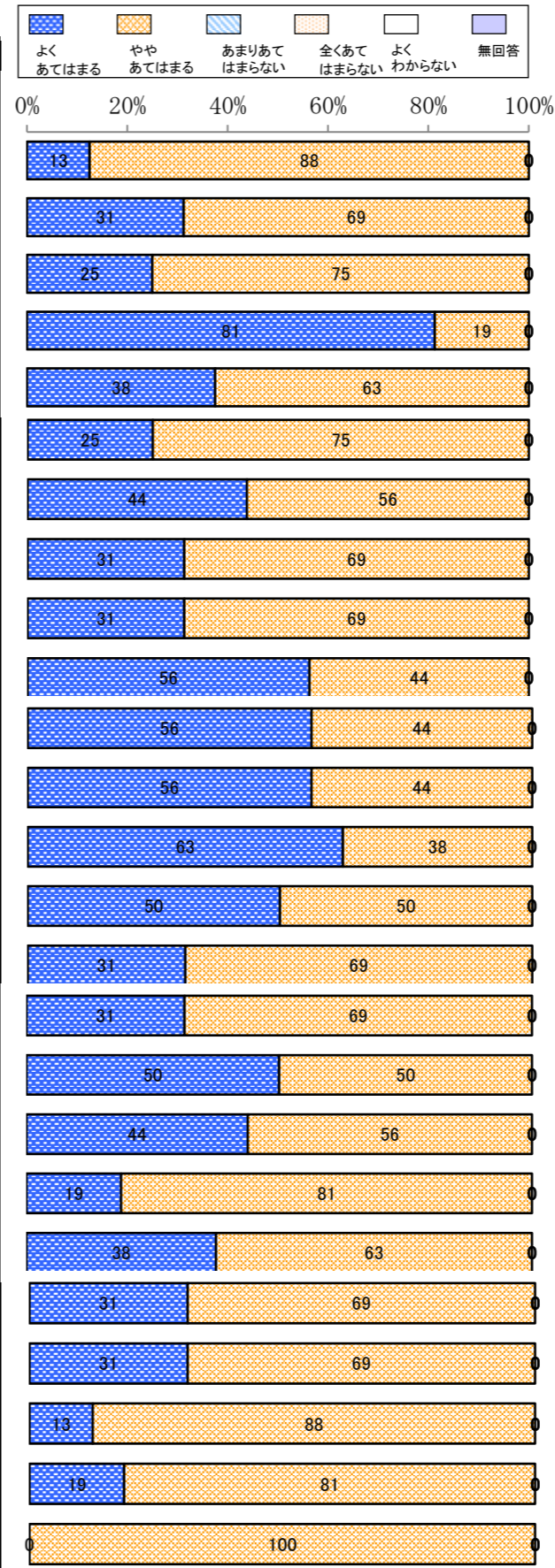


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分からない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	44	38	9	2	7	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	72	23	3	0	1	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	51	37	9	0	2	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	36	38	20	3	3	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	68	25	5	1	1	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	57	30	8	2	3	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	58	33	5	0	3	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	57	21	15	4	2	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	57	32	8	2	2	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	38	39	15	2	6	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	63	28	5	1	2	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	36	40	13	5	5	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	42	33	14	7	5	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	74	13	9	1	3	0
	15	自主的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自主的に活動できるように工夫しながら指導している。	58	31	8	1	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	40	28	7	5	19	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	54	36	3	3	5	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	46	32	11	5	5	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	33	31	22	9	5	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	37	38	7	6	13	0
各学校の特色ある教育	21	主体的に学ぶ態度	児童は、どのように学習を進めていくかなど、見通しをもって学習している。	40	39	15	2	4	0
	22	調べ学習の充実	児童は、調べ学習を進んで行き、自分の考えを発表する活動をしている。	36	37	23	2	2	0
	23	聞く態度	児童は、人の話を最後までよく聞いている。	55	32	11	1	2	0
	24	誰とでも協力できる心情	児童は、友達の良いところを褒めて行動をしている。	39	44	12	2	3	0
	25	前向きに生活する態度	児童は、失敗をおそれず、いろいろなことに挑戦している。	39	41	13	3	4	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
教育目標は児童・保護者ともに80%を越している。これからも様々な場面で取り上げ、浸透させていく。	
昨年度と全く同じで、児童、保護者共ABの割合が95%だった。コロナ禍でも、工夫しながら学校生活を楽しんでいることが分かる。	
昨年度とほぼ同じ結果だった。あいさつは定着してきたので、返事や言葉遣いなどに重点をおいて指導していく。	
保護者は変わらなかったが、児童では昨年度よりも、6ポイント下がった。意識的に児童を認める言葉かけを行っていく必要がある。	
避難訓練を行っているかという設問に対して90%はできているという回答だった。安全教育は定着していることが分かるが、今後はさらに児童が主体的に関わるように取り組んでいく。	
児童では5ポイント下がっている。全ての教員が同じレベルで指導ができるように、さらに研修を行い、より分かりやすい授業を行っていく。	
児童は90%以上が指導方法の工夫があると感じている。保護者に授業を公開する機会が少なく、保護者は「よく分からない」という結果も多かった。	
児童が10ポイント下がってはいるが、家庭学習の取り組みが充実している学年もあり、個人差が大きいと思われる。	
児童、保護者ともに上がっている。タブレットを持ち帰ったり、学級での使用も増えたりと、確実にICTの活用は能力は向上している。	
児童では4ポイント下がっているが、調べ学習での図書館の活用もしっかりと行われている。今後は授業以外での活用も取り組ませていくようにする。	
相手を大切にしていると応えた児童が90%以上と昨年度と数値は変わらないが、100%を目指してこれからも心の教育を行っていく。	
低・中学年は、善悪の判断の時間があるかという設問に対する児童の回答になっている。設問内容は学校では変えられないが、道徳性全体を判断するような問いかけになるように、実施の時に児童に伝えていくことが大切である。	
信頼できる先生がいるかという設問に対する回答で、数値は昨年度と変わっていない。いないと答えている児童が20%いることを重く受け止め、児童に寄り添い話しやすい環境、信頼関係を構築することに努めなければならない。	
学校行事が楽しいという設問。やはりコロナ禍の影響で活動が縮小しているせいか、児童の評価は5ポイント下がった。工夫し充実した行事を計画していきたい。	
係や当番活動をきちんとやっているかという設問。昨年度と変わらず、責任をもって取り組んでいることが分かる。	
学校からの発信を保護者が受け取っているのか。保護者は95%がしっかり受け取ってくれている。今後も様々なメディアを活用し、より分かりやすく発信し、100%を目指す。	
先生からのアドバイスや支援があるかという設問に対して、90%の児童があると回答しているが、これも100%になるように児童と信頼関係を構築していく。	
保護者は学校の努力を評価しているが、児童は保護者が学校に来ているとあまり感じていない。コロナ禍で難しいが、学校は、保護者が来やすい取り組みを今後も検討していかなければならない。	
保護者は「よく分からない」という回答が昨年度同様28%だった。地域行事がなくなくなり教職員の地域行事への参加はほとんどなくなった。	
昨年度同様、保護者は「よく分からない」が28%だった。様々なアンケート結果を受け、改善できることは行っている。今後は保護者に伝える努力をさらに行っていく。	
主体的な学習の取り組みは79%の児童が行えていると回答。ただ、学級差も大きく、すべての学級でしっかりと取り組み、児童の主体性を向上させていく必要がある。	
調べ学習は73%の児童ができていると回答。昨年度と大きくは変わらない。今後は、児童が自信を持って発表できるよう、発表力を伸ばす指導に重点をおく。	
若干児童の聞く態度が落ちている。聞くことはコミュニケーションの一番大切な力である。学級経営に力を入れ、すべての学級でしっかり話を聞ける児童を育てていく。	
相手の気持ちを考えて行動しているかという設問。児童の83%ができていると答えているが、児童によって規準が曖昧な部分もあり、道徳教育とも関連させ、しっかりと指導していく。	
保護者のA評価が児童より20ポイント低い。児童の自己肯定感を育てるためにも、大いに認め励まし、児童の挑戦する気持ちを、学校とともに応援していくよう働きかけていく。	